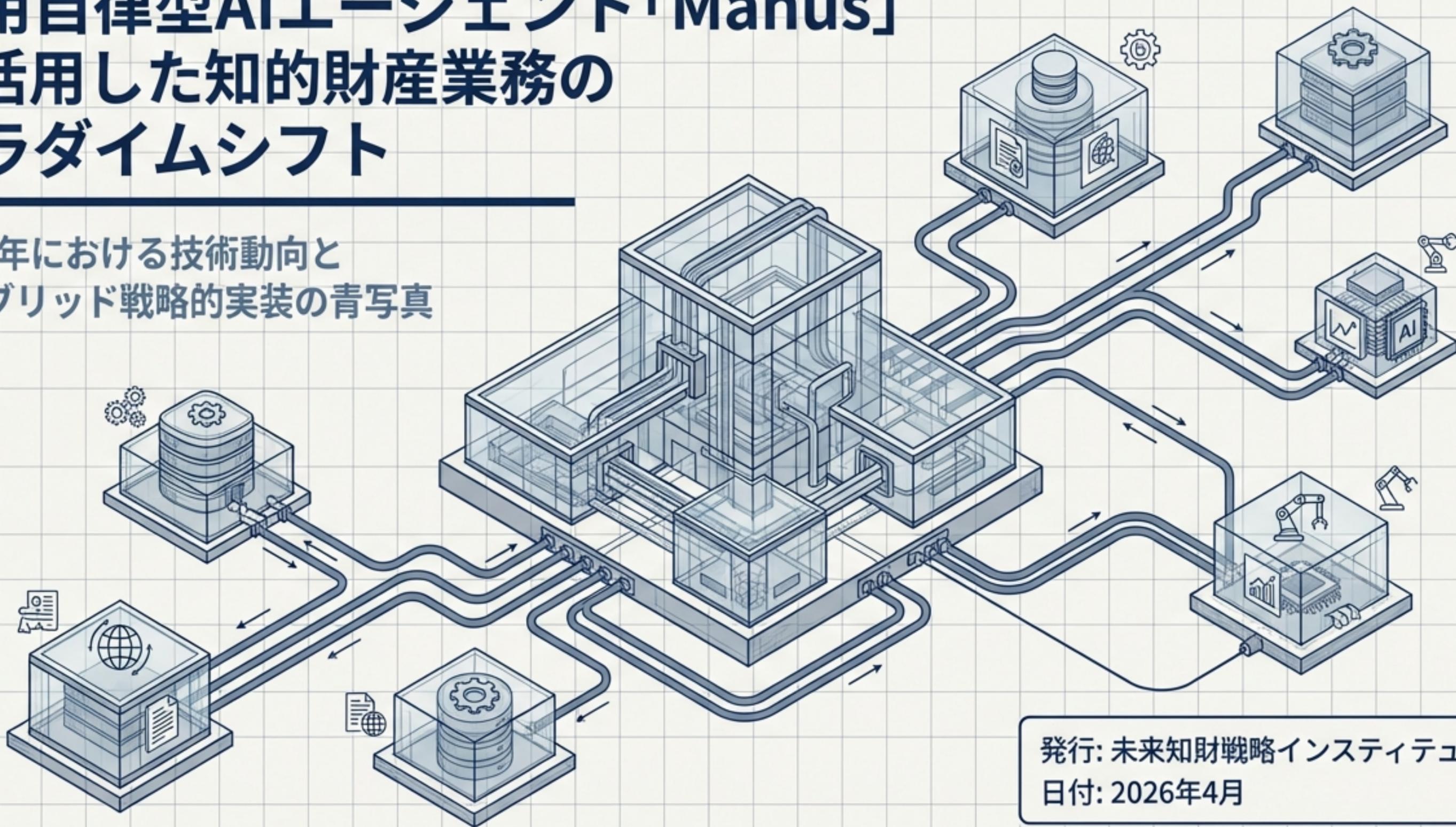


汎用自律型AIエージェント「Manus」 を活用した知的財産業務の パラダイムシフト

2026年における技術動向と
ハイブリッド戦略的実装の青写真



発行: 未来知財戦略インスティテュート
日付: 2026年4月

現状の限界：対話型AI (2024-2025)

355万件

2023年世界特許出願件数 (前年比2.7%増)

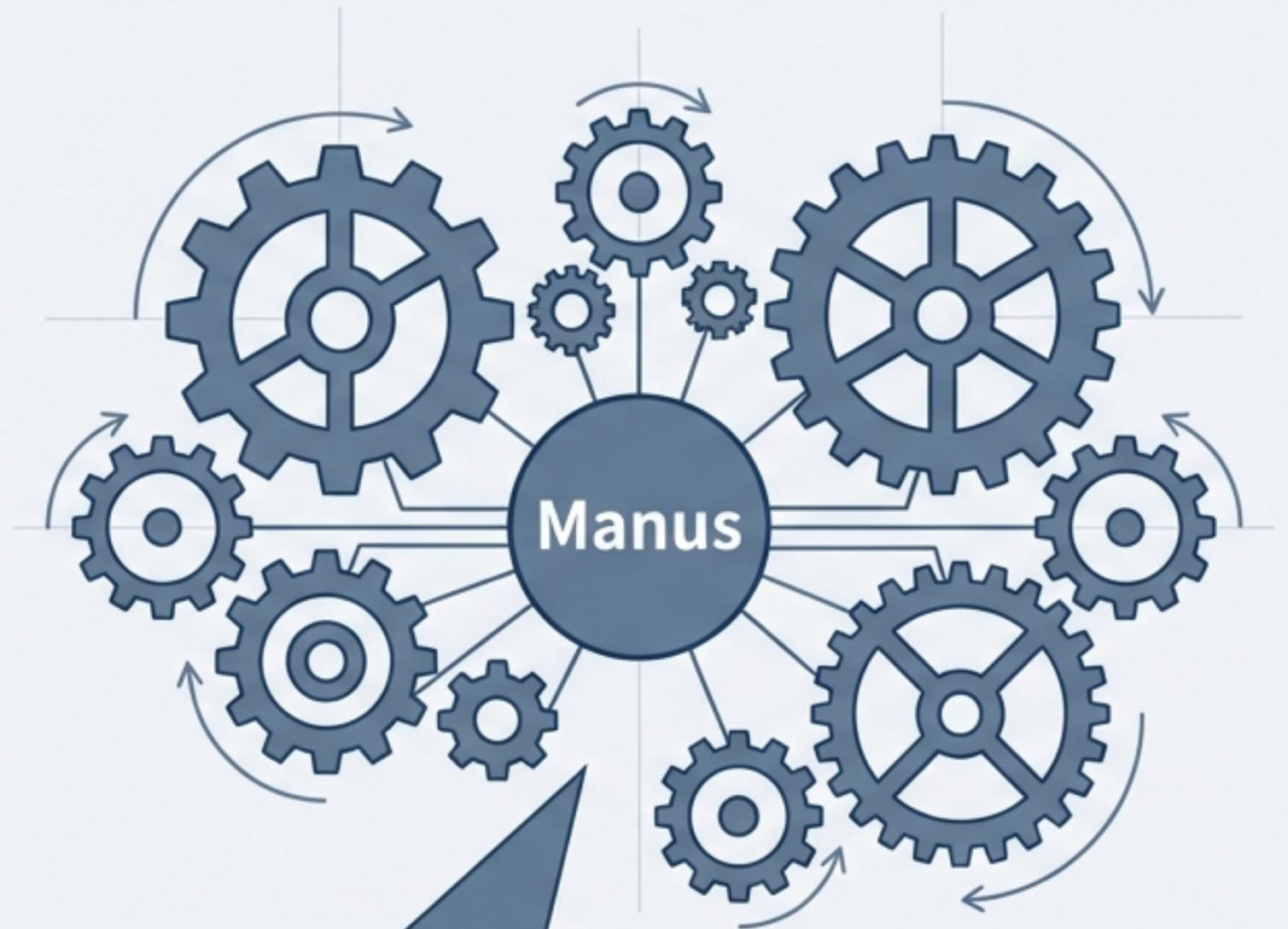
週11.4時間

知財チームが非請求業務に費やす平均時間



コンテキスト制限と手作業による
ボトルネックの限界

エージェントック・パラダイム (2026)



パラダイムシフト

プロンプト応答型から、目標に向けて自律的に
計画し、ツールを駆使して完遂する「自律型
エージェント」へ。知財管理の再定義。

Manus AI コア・アーキテクチャ：自律実行の技術的優位性



知能層：マルチモデル頭脳

Claude 3.5/3.7 (推論) +
Qwen (実行) を動的切り替え

実行層：CodeAct サンドボックス

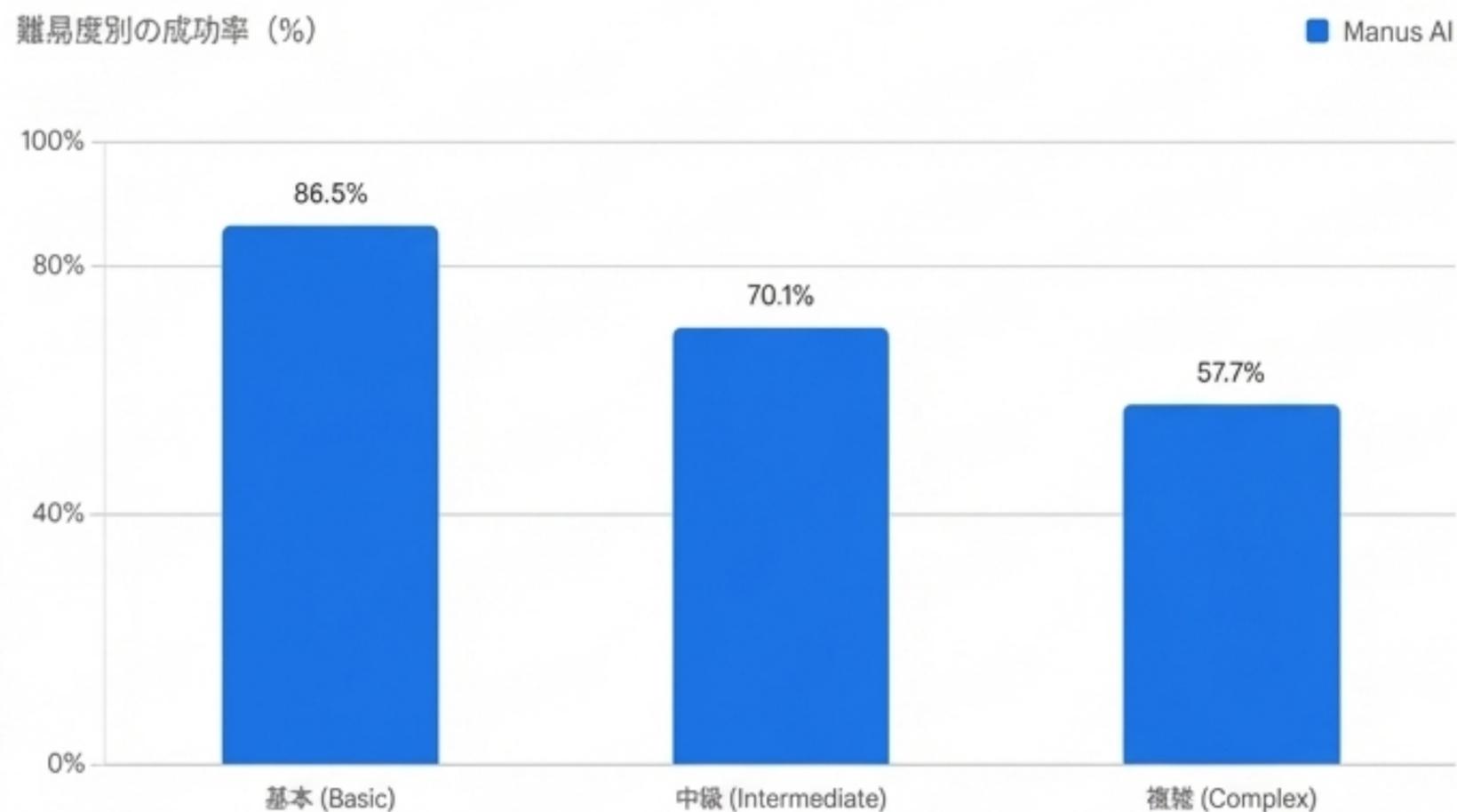
隔離環境でPythonスクリプトを
自律生成・実行。数万件のCSV
データをクリーニングしグラフ化。

記憶層：自己修正とログ

ReActループとファイルベース
記憶により、タスク喪失時も高
度な自己回復力を発揮。

GAIAベンチマークにおける性能検証と運用上の制約

Manus AIのGAIAベンチマークにおけるタスク達成率



自律型エージェントの実行能力を測定するGAIAベンチマークにおいて、Manusはすべての難易度でOpenAIのDeep Researchモデルを上回るパフォーマンスを記録した。特に複雑な推論を伴うタスクでの高いスコアは、多段階の特許分析における有効性を示唆している。

データソース: Kanerika Inc.

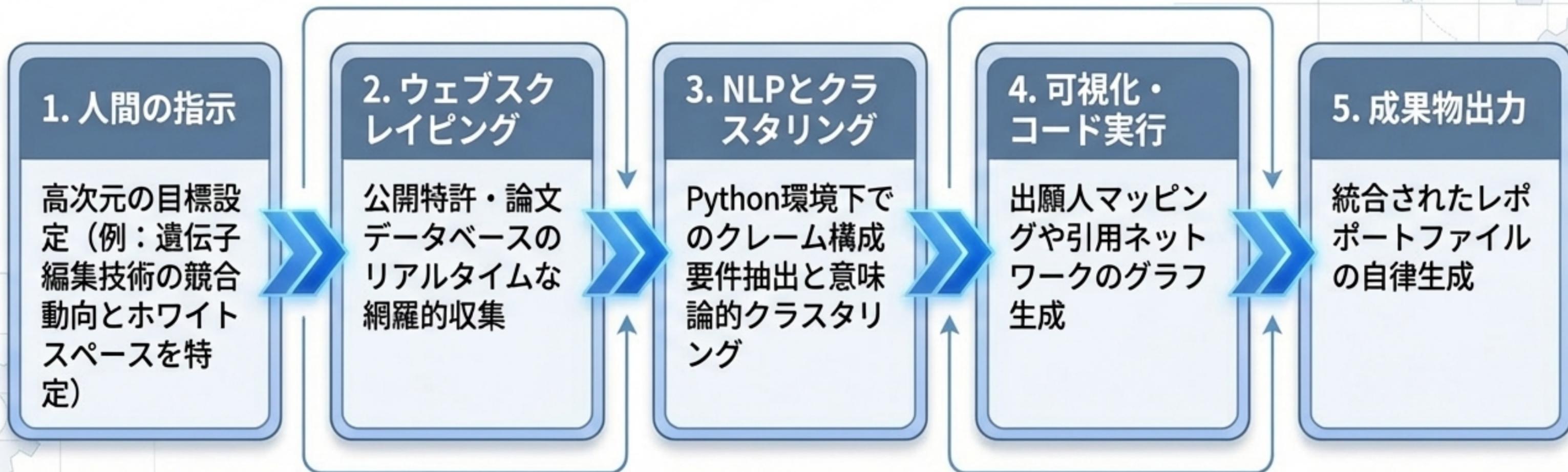
複雑な推論におけるブレイクスルー

特に「複雑 (Complex)」タスクでの高スコアは、多段階にわたる特許分析やFTO調査におけるManusの卓越した有効性を証明。

⚠️ 2026年時点の運用上の制約

1. **無限ループのリスク:** 極端にステップ数が多いプロセスでのエラー。
2. **ハルシネーション:** 法的引用や統計における事実誤認の残存リスク (ファクトチェック必須)。
3. **財務的予測可能性:** 複雑なタスク1件につき500~900クレジットを消費する価格変動。

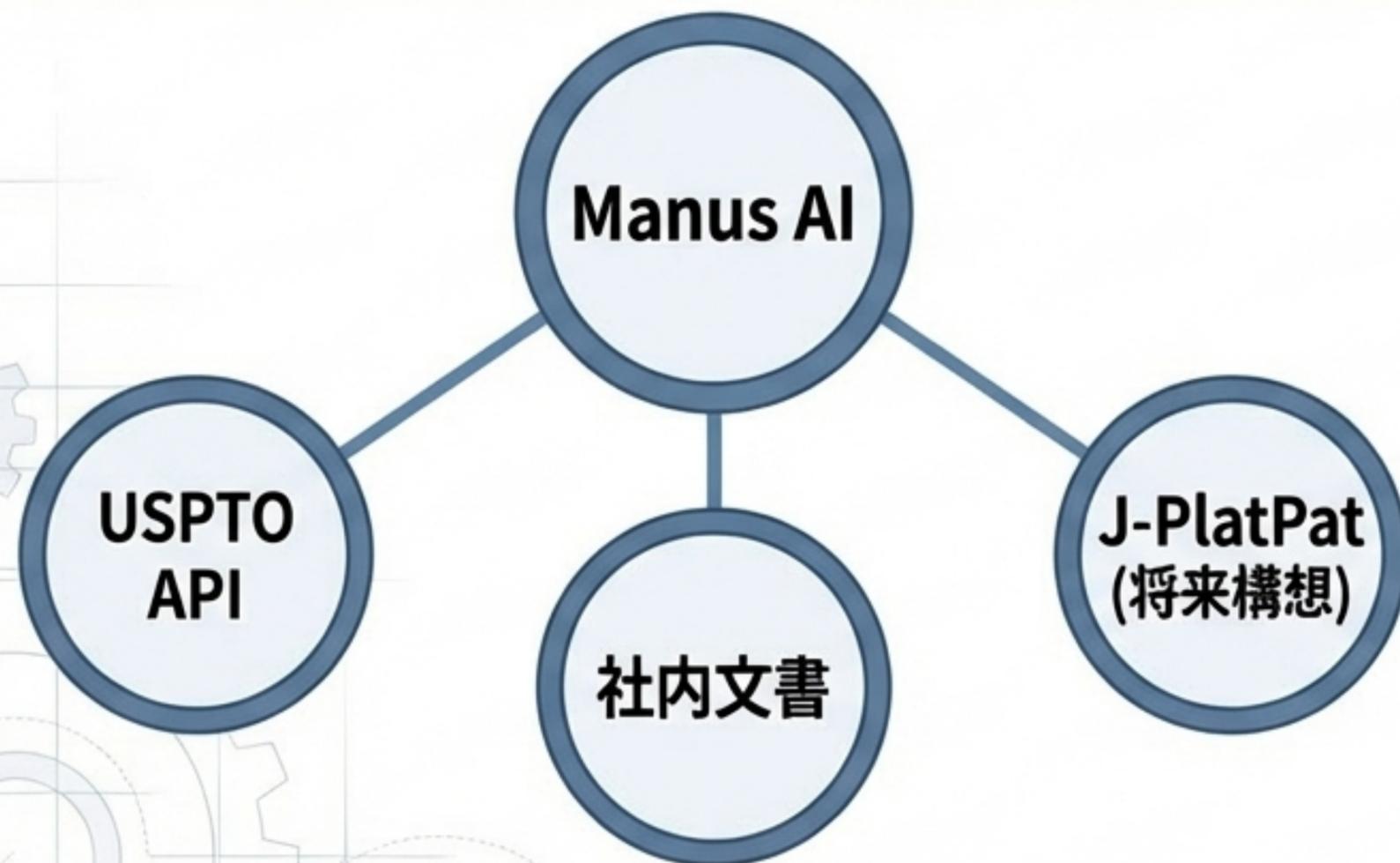
パテントマップ構築の自律化プロセス



インサイト: この自律的フローにより、R&D（技術言語）と知財部門（クレーム言語）のコミュニケーションギャップが早期に埋められ、出願前コラボレーションが劇的に強化される。

MCP (Model Context Protocol) によるデータサイロの破壊

MCPとは: AIモデルと各種データソースを標準化形式で安全に接続するプロトコル。「AIのためのユニバーサルな USB-C」として機能する。



USPTOとの動的クエリ実行例

包袋履歴の抽出

出願番号16/123,456の法的ステータスと審査官の拒絶理由を要約

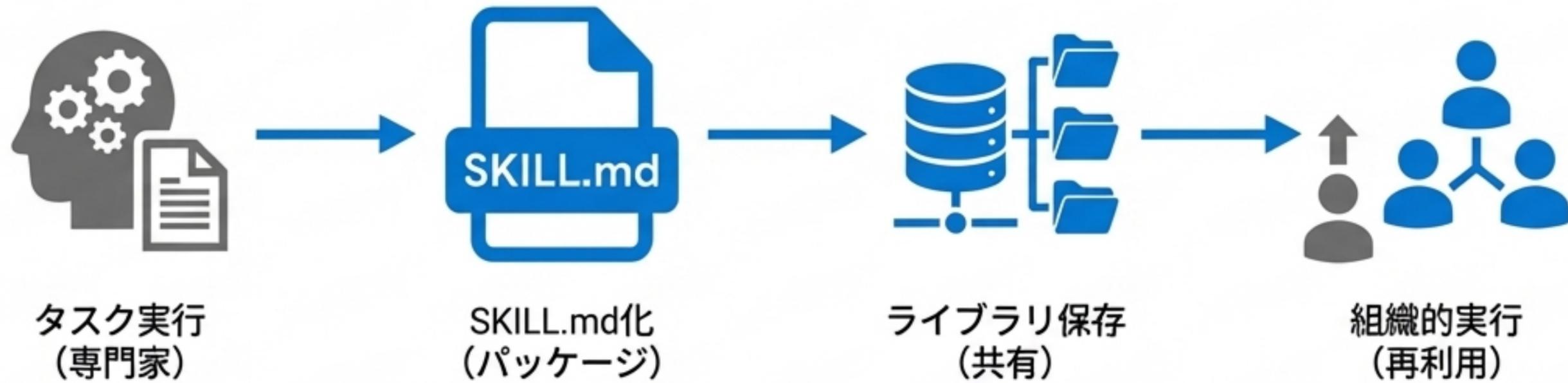
譲渡記録の追跡

特定企業の全特許譲渡記録を検索し、権利変遷を時系列整理

無効審判チャレンジ

特定特許のPTABにおける履歴と結果を報告

Agent Skills: 知財ノウハウの暗黙知を形式知化



具体的なSkill実装例

NDAの自律的トリアージ

自社プレイブックに基づき、リスクを「Green (標準)」「Yellow (要レビュー)」「Red (重大問題)」に自動判定し、レッドラインを提示。

特許明細書のドラフティング

ベテラン弁理士の「背景技術→課題→解決手段→クレーム階層」という一連の思考プロセスをSkill化。経験の浅い技術者でも高品質な明細書案を生成。

特化型知財AIか、汎用エージェントか：ゼロサムのパズル

汎用AIエージェント (Manus)

- ✓ 汎用的な推論力
- ✓ 自律実行ワークフロー
- ✓ 技術とビジネスの領域横断的分析
- ✗ マイナー法域データの欠落
- ✗ 高度なクレーム解釈での誤謬リスク

VS

特化型知財AI (PatSnap, Clarivate等)

- ✓ 代替不可能な価値：世界100以上の法域と数億件のデータ
- ✓ 特許クレーム特化のNLPモデル（新規性調査で40%精度向上）
- ✗ 特許データへのサイロ化
- ✗ 手動による他システムへの連携

結論：リプレイス（代替）ではない。汎用AIへの完全移行は、専門的解釈において致命的なリスクを伴う。

ハイブリッド統合マトリクス：Manusをオーケストレーターとする共生

	汎用AI (Manus)	特化型AI	ハイブリッド統合シナリオ
データ網羅性と品質	オープンWeb/API依存	100+法域・独自引用網	特化型データの精緻な出力をManusが解析
法的解釈と精度	クレーム解釈にハルシネーション懸念	独自NLPによる精緻な法的スコアリング	法的リスクスコアにManusが市場動向を紐付け
領域横断的インテリジェンス	特許・財務・論文を横断統合	特許データにサイロ化	法的評価とビジネス動向を融合した包括的R&D基盤
ワークフローの自律化	エンドツーエンドの自動実行	ツール内完結・手動連携	Manusが特化型を自律操作し社内CRMへ自動通知

エンタープライズ・セキュリティとデータ保護



✓ SOC 2 コンプライアンス準拠

Team/Enterprise Planにおける厳格なセキュリティ基準のクリア。

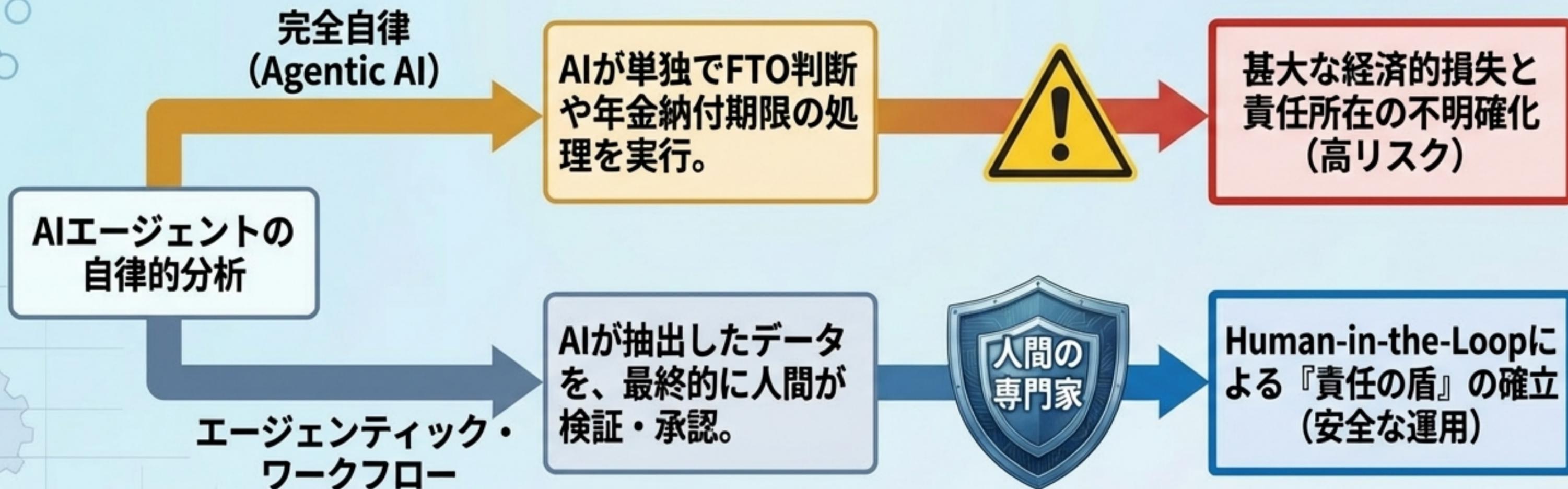
🛡️ 厳格なオプトアウトポリシー

入力データおよびファイルがAIモデルのトレーニングに利用されることを明示的に禁止。

🔑 きめ細かなアクセス権限管理

Granular Sharing Controlsによる、未公開特許やM&A機密情報に対するチーム内での厳密な権限統制。

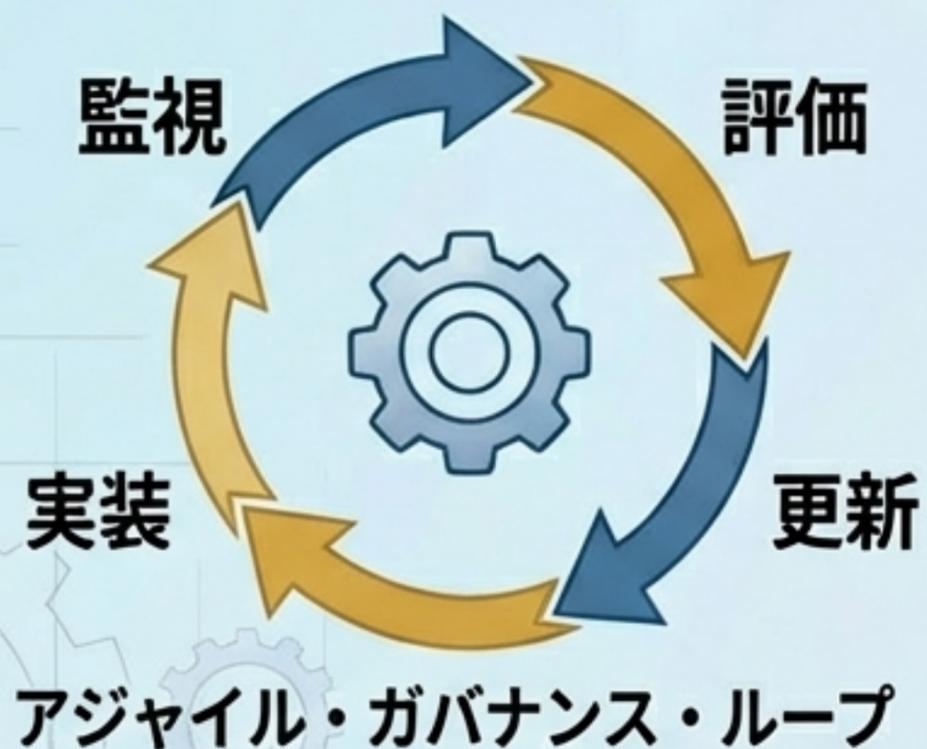
法的責任の空白と『責任の盾 (Liability Shield)』



完全自律による知財管理は2026年時点において財務的・法的に許容できない。
人間の専門家による最終承認プロセスが企業を守る防波堤となる。

日本市場における規制コンプライアンス： 「AI事業者ガイドライン」への適応

法的文脈：
総務省・経済産業省「AI事業者ガイドライン（第1.1版）」における自律型AIへのガバナンス要件（ソフトウェア）への準拠。



必須実装の技術的ガードレール

- サンドボックス検証
本番の特許管理システムへデータ変更権限を与える前の、隔離環境での十分な動作検証。
- 異常検知システム
論理エラーや外部操作による意図せぬ情報漏洩を防ぐためのネットワーク監視。
- ロールバック（復旧）機能
致命的なシステム変更が発生した際の、確実な復元メカニズムの実装。

AI発明者適格性（AI Inventorship）とDABUS判決の実務的影響



司法判断：2025年1月 知財高裁「DABUS事件」控訴審判決

「特許法上の『発明者』は自然人に限られる」と明確に判示。AIの権利能力を否定し、AIはあくまで人間の発明プロセスを補助するツールであると位置づけ。

知財実務への対応アクション

Manusを用いて高度なアイデア生成やクレーム作成を行った場合でも、将来の無効審判や権利帰属の争奪リスクへの防衛策が必須となる。

「人間の技術者・研究者が、どの段階で、どのように本質的な技術的貢献（着想の具体化、データの取捨選択、クレーム構成等）を行ったか」を詳細に文書化する内部プロセスを直ちに確立せよ。

Synthesis: 次世代知財組織に向けた戦略的ロードマップ

2026年 知財部門の戦略的青写真

ハイブリッド・ インテリジェンスの確立

Manusをオーケストレーターとし、MCPを通じて特化型AIの法的精度と結合。包括的なR&Dインテリジェンス基盤を構築。



組織的暗黙知の Skill化と共有

属人的なノウハウを抽出し、Agent Skillsとして形式知化。Team Skill Libraryを通じた組織横断的な品質均一化を実現。



強固なガバナンスと Human-in-the-Loop

エンタープライズ版によるデータ保護とガイドライン準拠。最終判断に人間を介在させる『責任の盾』を制度化。



エージェントック・ワークフロー基盤

Editorial Blueprint

パラダイムシフトの真の意義：自動化ではなく、人間の創造的思考の解放

知的財産業務におけるAIの導入は、専門家の仕事を奪うものではない。エージェントAIが情報収集・整理・初期分析という膨大なノイズ処理を自律的に引き受けることで、人間は「事業戦略と知財の融合」や「複雑な交渉の主導」といった、真に戦略的な価値創造に専念できるようになる。この新たな協働モデルを先導する組織こそが、次世代のイノベーション競争を制する。

